

「石塚優教授退職記念号の発刊にあたって」

本研究所の石塚優教授は、本年平成 27 年 3 月末日をもって定年退職なさいます。

石塚先生は、昭和 25 年（1950 年）3 月 6 日函館市の郊外にお生まれになり、函館中部高等学校を経て関西大学社会学部社会学科を卒業後、同大学大学院社会学研究科社会学専攻博士前期課程を修了、同博士課程後期を単位取得満期退学されました。その後関西大学社会学部、甲南大学文学部等の非常勤講師を務めた後、昭和 60 年（1985 年）10 月に当時の北九州大学北九州産業社会研究所専任講師として着任なさいました。その後昭和 62 年（1987 年）10 月本学助教授、平成 8 年（1996 年）4 月に本学教授に昇任され、現在に至っています。

石塚先生のご専門は高齢者福祉を中心とする高齢化問題ですが、その研究対象は高齢者の心理に関するもの、高齢者の社会関係に関するもの、高齢者福祉の課題に関するもの、さらには高齢化と地域社会の問題、高齢化・少子化と人口問題、あるいは女性の就業と人口減少の問題等、現代社会の抱える問題について幅広く及んでいます。また、これらの調査研究にとどまらず、周辺の地方公共団体における高齢者福祉計画、地域福祉計画あるいは男女共同参画計画等の策定にも関与してこられました。まさに長期にわたり本研究所（前身の北九州産業社会研究所時代を含む。）の中心をなす働きをしてこられたということができるでしょう。また石塚先生はご専門の分野について本学の学部等や大学院で授業を担当され、本学の教育面でも相当の貢献をしていらっしゃると思います。とくに社会システム研究科においては、多数の院生の研究指導をしてこられました。

かつて北九州産業社会研究所時代には、プロジェクト毎に学内の他学部の教員に兼任所員として参加を求め、共同研究を行っていました。その頃には私も高齢者福祉に関して石塚先生のグループに参加し、調査研究のためヴァージニア州ノーフォーク、ウエールズのカーディフ等に同行したこともあります。石塚先生は飄々とした御仁とお見受けいたしますが、海外へ出かけてもそれは変わることなく、同行した海外出張も今では楽しい思い出となっています。

今後の石塚先生のご健勝を祈念するとともに、本研究所、本学の後輩達にご助言ご鞭撻を賜りますよう切望する次第です。

2015 年 1 月 30 日

北九州市立大学都市政策研究所長
岡本 博志